

在宅子育て家庭の支援充実も！

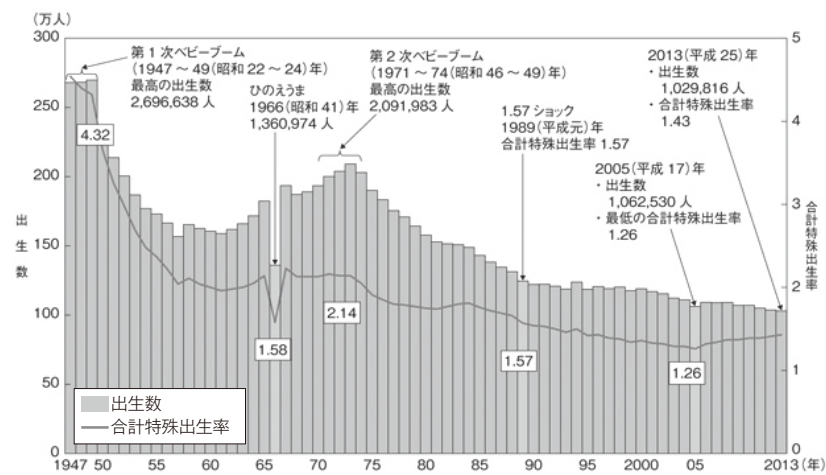
国では、平成2年のいわゆる1・57ショックを受け、平成6年のエンゼルプランの策定に始まり、これまで様々な計画や法令を整え、多くの予算をかけて少子化対策に取り組んできました。

そして、その取り組みの中で、常に重点的に取り組まれてきたものに新宿区も積極的に取り組む保育サ―ビスの充実、待機児童解消があります。厚生労働省が本年6月5日発表した平成26年の人口動態統計によると、合計特殊出生率は1・42となり、9年ぶりに低下したとのことです。少子化対策としては、これまで



の国や地方自治体の取り組みが十分に効果を出しているとは言えない状況だと思っています。また、「東京ブラックホール化」という言葉も耳にしますが、全国で最も保育園等の数が多く、23区が競って整備を推進している東京都の合計特殊出生率が全国でもっとも低いというのが現実です。

国も地方自治体も今までの取り組み



資料:厚生労働省「人口動態統計」

みに固執するのではなく、違った視点でも少子化対策に取り組む必要があるのではないだろうか。少子化の主な要因としては、晩婚化と未婚化があると言われますが、子どもを産み、育てたいと思う全てのご家庭のニーズを的確に捉えて対応することが、少子化対策に効果があるのではないかと考えます。

国立社会保障・人口問題研究所が女性に対して行った調査によると、「子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念した方が良い」の賛成割合は、減少傾向にはあるものの平成25年に実施された最新の第5回調査においても全体で77・3%あり、最も年齢の低い「29歳以下」にあつても63・5%が賛成しているとのこと。

私は、あえて男女を問わずと言わせて頂きますが、家庭を持ち、自分の子供を持つのであれば、特に0歳から2歳くらいまでの乳幼児期は出来ることなら在宅で子育てをしたいと思う方もかなりの割合でいるのではないかと考えています。

新宿区が、乳幼児期における在宅子育て家庭をより積極的に支援する

ことにより、より良い子育て支援、少子化対策になるのではないのでしょうか。

これまで新宿区は、待機児童解消に向けた取り組みについて、23区の中でもかなり力を入れて取り組んできました。また、今後も積極的に続けていくわけですが、保育所などの運営費には、区の一般財源も多く投入されていることもあり、新宿区に長く在住されている方への配慮も必要だと感じています。少子化対策の日本社会全体の課題としては、育児休業の延長や子育てをした人々の職場復帰を応援する等、様々な課題がほかにありますが、より積極的に乳幼児期の在宅子育て支援にも力を入れて行くことが、ひいては、待機児童減少にもつながるのではないのでしょうか。

〒160-8484
新宿区歌舞伎町1-4-1
自由民主党新宿区議会議員団
(発行人 吉住はるお)

事務所
〒162-0838
東京都新宿区細工町1-8
ヴィラK2 302号室
TEL: 03-3260-3104
FAX: 03-3260-3107
メール:
yoshizumi-haruo@nifty.com

行動



吉住はるお

区政レポート

平成29年新春号

皆様には、お健やかに新春をお迎えることと、心よりお慶び申し上げます。

皆様のおかげさまで、私も新宿区議会議員として10年目を迎えようとしています。

ますます精進してまいりますので、今後とも御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年
第3回定例会決算特別委員会
総括質疑

新宿区都市マスタープラン
(都市計画)の見直しについて

私は、ここ数年、高齢者の方や車いす利用者の方などから「歩道の切り下げが急だ」とも通行しづらい。「道路上のちよとした障害物でつまずき、転びそうになった。」「狭い道なのに、車が多く進入してきて怖い。」などのお話を伺う機会がとても増えているように感じています。

私は、今後の新宿区のまちづくりにおいて、より「層力を入れるべき課題として」人に

人にやさしいまちづくりを！



「道路のバリアフリー化と
無電柱化整備」について

これまでも新宿区では、交通バリアフリー基本構想に基づいた重点地区と2020年オリンピックパラリンピックを見据えた駅周辺の整備、また、区内全域における歩行空間



沿道の歩道状空地の整備の例

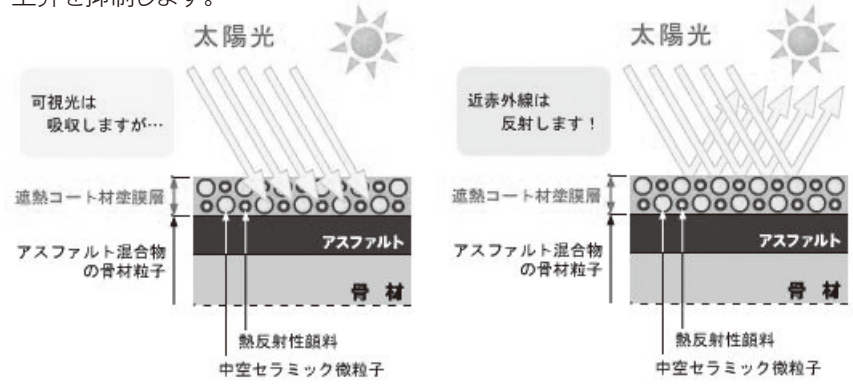
の確保、段差の解消、視覚障害者用誘導ブロックの設置等に取り組んでこられていることは承知していますが、今後、一層、高齢者や車いす利用者等にやさしい道づくりを強力に推進することが重要だという視点に立ち、お伺いいたします。これまでの新宿区の「区道のバリアフリー」化の取り組み状況と成果について、そして、今後の課題などについてもお答え下さい。また、道路の無電柱化整備については、国では、2020年の東京オリンピックパラリンピックに向け、本年4月より「電線等の埋設に関する設置基準」の緩和を行い、先日の新聞記事によれば、本年度これから予定される補正予算の中で、無電柱化のために数十億円の事業費を確保することです。また、東京都においても以前よ

遮熱透水性舗装

新宿区では、道路管理の一環として地下水の涵養や道路冠水対策を目的とした透水性舗装を実施してきましたが、これに加えて、熱を反射させる遮熱機能を合わせた「遮熱透水性舗装」を行っています。

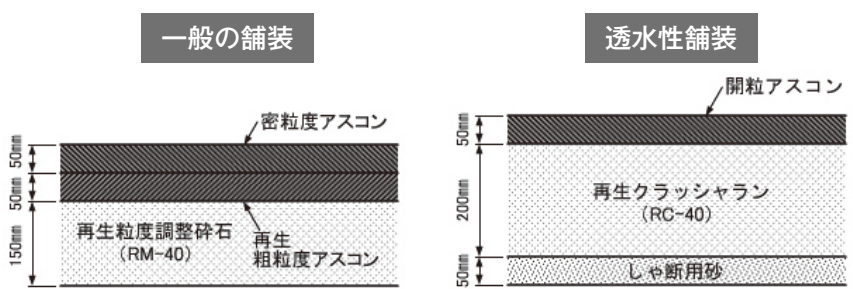
遮熱透水性舗装とは

アスファルト舗装の表面に、熱を反射する遮熱コート材を塗布して路面の温度上昇を抑制します。



遮熱透水性舗装の最高路面温度は従来の舗装に比べ約11℃も低くなります。

一般の舗装と透水性舗装



新宿区ホームページより



そこで、これまでの区の取り組み状況と成果についてお伺いたします。また、歩行者優先の道路空間の形成を進めていく上での課題などあればお答え下さい。

環境にやさしい道づくりについて

新宿区では、以前よりヒートアイ

ランド現象の抑制をはかるために路面温度の低減効果がある遮熱透水性舗装を実施しています。最近では、国や都においても、東京五輪に向けた暑さ対策としてマラソンコースを中心に遮熱性舗装をより積極的に推進していくことが、マスコミ等で報道されています。東京都においては五輪までのロードマップを作成し、昨年度から、

より積極的に遮熱性舗装を導入していくとのこと。年々温暖化が進んでいると感じられる昨今ですが、暑さ厳しい夏場において子供から高齢者まで安心して外出できるようにするために、また、室内の温度を下げ、過度にエアコン等に頼らない生活を過ごすためにも、国道や都道と併せて、区民に一番身近生活道路である区道



細街路の拡幅整備の例



無電柱化整備の例

り道路の無電柱化に積極的であると言われる小池新都知事の下、今後、より一層強力に道路の無電柱化を推進することが予想されています。

新宿区では、これまでも、災害に強いまちづくり、バリアフリー化、都市景観の向上の観点から、三栄通りや聖母坂通



歩行者優先の道路空間づくりについて

私は、高齢化の進展に伴い、いわゆる生活道路に於いての歩行者の安全性に関するご意見をここ数年、伺いすることが増えているように感じています。

このことは、新宿区のユニバーサルデザインガイドラインに詳しく記載があり、とても参考になりますので、以下、その一部を引用させていただきますが、「人の通行が優先されるべき幹線道路に囲まれた住宅街や学校周辺などの地域においては、通行する車を制限することにより、住環境の改善を図り、歩行者が安心して歩ける生活空間を確保することが必要です。通り抜け車両の制限や車道部分に起伏を設けて車両のスピードを抑制する対策、交差点部のカラー舗装や通行部分を部分的に狭めるなどの

安全対策、舗装や車両の進入を阻止する車止めによる歩行空間の視覚的分離などの対策により歩行者の安全性を高めることが必要です。」とあります。まさしくその通りだと思いますし、今後ともこのような取り組みを積極的に行って頂きたいと考えます。



通行部分を部分的に狭めることや生活道路の自動車の速度を規制することで、生活道路における歩行者の安全性を高めている

吉住はるおプロフィール

昭和48年4月、新宿区生まれ、京北高校卒業
日本大学文理学部社会学科卒業
元防衛庁長官 中西啓介秘書
参議院議員 世耕弘成秘書
衆議院議員 与謝野 馨秘書
平成23年4月

自民党公認 新宿区議会議員選挙3期当選
現在

議会運営委員会委員長
福祉健康委員会委員
自治・議会・行財政改革特別委員会委員
自由民主党新宿総支部政務調査会長



新宿区の取り組み

の路面温度を下げていくことは、重要な取り組みだと考えます。そこで、お伺い致しますが、これまでの区の取り組み状況や成果はどのようなであったか、そして、今後取り組んでいく上で課題があればお答え下さい。